

夏の夜空に3惑星が揃い踏み **水星** を見つけるチャンス到来!

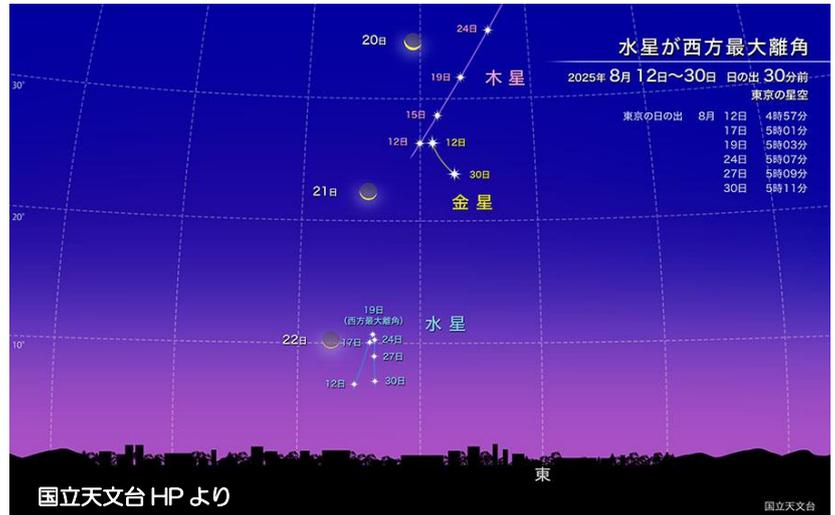
●見ごろ：8/19(火) 朝4時30分頃 東の空

観測日和：8/17(日)～8/24(日) 日の出の30分前(4:30頃)

太陽系には、太陽を中心に、公転している大小様々な天体たちがあまたあります。その中で特に大きいものたちは惑星と呼ばれます。現在、8つの惑星が知られており、太陽に近いものから水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星です。

■奇妙な動きをする惑星たち

惑星たちは、他の星たちより明るく、なにより、星座を形作る星たちの間で、日毎に位置を変え、しかも東に動いたと思ったら翌日は西へなど、不規則に動くので、惑(まどわせる)星と呼ばれるようになったそうです。



■自然界のすべてのものを形作る「木・火・土・金・水」～五行説～

惑星の英語名は、ジュピターやビーナスなど、神話の神々たちの名前が付いていますが、和名は『自然界にあるものは、「木・火・土・金・水」の5つの素材から出来ている』という古代中国の「五行説」という考えをもとにして、名付けられたという説が有力です。当時は、天王星と海王星は見つかっておらず、ちょうど特別な星は5つあるので、これも、五行説と関連していると考えたのでしょね。

■水星&金星は、さらに変わり者

惑星の中でも、水星と金星は、他の5つより、さらに奇妙な動きをします。朝方か夕方しか姿を現さず、太陽とともに行動する特異な星です。内惑星と呼び、その理由は、3年生の理科で学びます。

■観測ポイント！ 3惑星揃い踏みは、壮観ですね！

水星と金星は、太陽の近くを公転しているため、いつも太陽の側にいます。つまり、昼間は青空の中に常にいるのですが、空が明るくて見つけられないだけで、位置がわかれば望遠鏡で見ることができます。

金星は、太陽から最大に離れて、角度にして最大47°です。両方の腕を太陽に向けて伸ばし、右手を西側へ、左手を東側へそれぞれ47° 広げたその間のどこかに、常にいますが、夜中には太陽とともに地平線の下に沈んでいます。水星はさらに太陽に近く、最大で28°しか離れないため、夜空にいることがなく、朝焼けか、夕焼けの中、さらに低空にいるので、見つけるのが難しい惑星です。

しかし、今年の8月19日(火)に、太陽の西側で最も離れるので見つけるチャンスです。8月17日(日)～24日(日)の一週間が、チャンスです。早朝の日の出前30分、午前5時頃がチャンスです。ただし、高度が10°ほどと低いので、地平線近くが見れる開けた場所か、高い場所で観測するのが良いですね。明るさは、マイナス1等ほどあるとのことなので、見つけやすいです。

しかもこの時期、水星の少し上には、マイナス3.9等で黄金色に燦然と輝く金星がいて、さらにその上には、マイナス1.9等で黄色に輝く木星もいます。しかも、8月11日～13日は、金星と木星が、東の空で、かなり接近し、ほとんどニアミス状態です。これも見ものです。

紫立ちたる東の空に、3つの惑星が並ぶ、姿が見られます。

ちょっと早起きをしてみましょう！ もしかしたら、グリーン・フラッシュを見ることも出来るかもしれません。